



台湾の小学生が大石小学校を訪れました

12月5日(金)台湾の聖心国民小学校のドッジビークラブに所属する12名が坂井市を訪れ、大石小では、6年生児童と交流しました。初めの会では、司会の3名が調べて練習した中国語を使って、挨拶やゲームの説明をしました。説明のフリップは、「全部読める!」「分かる!」と台湾の子どもたちも太鼓判を押していました。ゲームの後には、ドッジビークラブのコーチから台湾での練習を教えてもらい、交流試合をしました。その後、給食も一緒に食べて、ステキなプレゼントもいただき、楽しい交流ができました。

台湾の子どもたちは、12月6日(土)に行われた坂井地区子どもまつりディスクドッジ大会にも出場し、大会に参加した子たちと再会することができました。昨日会ったばかりなのに、お互いに挨拶を交わしてニコニコと交流していました。子どもは柔軟ですね。大石小学校での交流をととても喜んで帰国されたとのことでした。また会えるといいですね!



門松で職員玄関前が華やかに!

辻の長谷川さんが、門松を学校に寄贈してくださいました。職員玄関前が華やかになり、一気にお正月気分! 長谷川さんは、毎年門松をつくっておられ、年々その数は増えているそうです。今年はその内の1門を学校に届けてくださいました。恥ずかしながら知らなかったのですが、門松には内飾りと外飾りというのがあり、2番目に高い竹が内側にあるか、外側にあるかの違いなんだそうです。学校に届けてくださったのは「内飾り」たくさんの福が入ってくるようにとの願いが込められています。飾られる松竹梅それぞれの意味はもちろんのこと、その他にも調べてみたら、荒縄を巻く数が3・5・7と決まっていることも分かりました。日本に昔から伝わる縁起物、とても興味深いです。

お正月を前に、調べてみるのも面白いかもしれません。

